

宇部・山陽小野田消防局消防長賞

「自然災害に備えて」

宇部市立常盤中学校 3年 八尾 沙香

「あれが水無川だよ。」

父が車を運転しながら私にそう言いました。

平成2年、雲仙普賢岳が噴火し、44人の命と、約1400戸の住宅が失われました。命を奪ったのは噴火現象の中でも最も恐ろしいと言われる火砕流でした。火砕流は火山灰や軽石などの火山碎屑物と、水蒸気や火山ガスなどのガス成分が一緒に山を流れる現象で、その温度は約数百度以上になります。また、早さは時速100kmを超えることもあるそうです。雲仙の噴火では水無川流域で、この火砕流やその後の雨によって土石流が発生し、多くの被害が発生しました。

私はこれまで雲仙の噴火については知りませんでしたが、今回、土石流被災家屋保存公園で土砂に埋まった民家を見学し、また、当時の火砕流の動画などを見て、火山噴火の恐ろしさを改めて感じました。

私の住んでいる場所の近くには火山はありませんが、日本は火山国で、私たちの生活に大きな影響を与えています。平成26年には長野県の御嶽山が噴火し、50人以上の登山客が命を落としました。また、先日も桜島で大規模な噴火が発生し、今も活発な火山活動が続いているようです。

いつ火山が噴火するかを正確に予測することは非常に難しいですが、その前兆は火山性地震として現れることが多くあるそうです。

例えば御嶽山の噴火では、噴火する17日前の9月10日頃から山頂の地震回数が急に増えたそうです。しかし、その後に地震回数が減ったため、多くの方

が命を落とす結果になってしまいました。

火山性地震などによる噴火予測は、現在も研究されているそうですが、前兆を観測してから実際に噴火するまで、数分～数年以上と非常にばらつきがあるため、噴火を正確に予測するのがとても難しいのです。そのため、いつ噴火しても対応できるように、普段から防災意識をもっておくことが大切です。

雲仙の噴火では、火碎流や土石流で家を失った人が多く発生し、長い人は約5年間も避難生活が続いたそうです。そのため、現在では土石流への備えとして、川の堤防や砂防えん堤が建設され、生活を守る仕組みが作られています。また、火山噴火だけでなく、最近は大雨や台風による土砂災害が増えていましたので、このような堤防建設などの公共事業を進めることの大切さを改めて感じました。

火山は噴火のような悪いことだけではなく、温泉や美しい風景を作り出すなどの良いことも私たちに与えてくれます。私は温泉が好きで家族と一緒によく行きますが、もし、噴火などの自然災害に遭遇した場合、適切に避難ができるよう、事前に目的地のハザードマップなどを調べておくことが大切だと感じました。

